

Serendipity ららい セレンディピティ：求めずして思わぬ発見をする能力。思いがけないものの発見 etc.

時の流れの中で、自分ではどうしようもできない不条理な出来事があったとしても、その出来事から思いがけず、「自分」に近づくことができるかもしれない。「今」を積み重ねていけば、「自分」になることができるはず。

果てない暗闇 涙が糸引く窓だとしても
開け放ちたい
時のセレンディピティ

永遠に思える悲しみが糸を引いて(=影響が長く続いて絶えない)、
涙が糸を引くように流れて、
その涙の糸が心の窓に絡まって閉じ込められてしまっている...
糸が両開きの窓に絡まっている、そんなイメージです。



夕暮れに映る影

うさぎに今はもう見えなくて
生ぬるいがらくたを並べたパサージュに
逃げ込んだ

帰り道、道路にのびる影の形がうさぎみたいに見えていたのに、
見えなくなってしまった...
昔当たり前にできていたことができなくなったり、
楽しいと思っていたことが楽しく思えなくなったり、
そういう変化に焦って、大切な思い出の中に逃げ込む感じです。
がらくたになりつつある、でもまだ温もりの残る思い出の物が
パサージュに並べてあるイメージです。



忘れない (忘れない) 時のジレンマ中
こころ見失って

忘れない(建前)、忘れない(本音)。
忘れることへの罪悪感との葛藤で、自分を見失ってしまいそう。

果てない暗闇 涙が糸引く窓だとしても
朝は流れ込む

置いてきぼりの小さな誓い
迎えに行く道で
ちょっとずつ
自分になれる日が来ますように

夕暮れ→闇夜→朝 「時間は流れるもの」を表現しました。
窓から朝日が漏れ出している、朝は必ず来る、という風景です。
いつのまにか忘れてしまった憧れ、夢、願望、を取り戻しにいく過程で、
そのときの「今」を生きて、だんだんと、「自分」が出来上がっていく
そんなイメージです。

借り物の ツツジ色 背表紙
今はもう薄ピンク
胸の中こだまする
ほんとは偽りの会話劇

「~ように」は、レクイエム、“お祈り”を意識しました。
ここでは、「自分になるため」に必要なものとのお別れです。

誰かから借りていた、何かの背表紙。
色が褪せる様子で、「時間は流れるもの」を表現しました。

戻らない (戻りたい) 時のパラドックス
今を見失って

忘れない、忘れない。戻らない、戻りたい。
この他にも、自分の中の天使と悪魔、善と悪、過去と未来...
両極性のものが葛藤していて、自分の今のど真ん中の気持ちが、
分からなくなってしまう感じです。

閉じないで瞳
涙が溢れる理由 同じでも意味は違うから
秋風 吹かせ
きれいごと 通り抜ける道で
聴きたい音だけ聴ける日が来ますように

例えば、どんなに災害に詳しくても、災害を経験しないと、
経験した人の気持ちは分からないし、たとえ同じ災害を経験しても、
Aさんにとっての災害と、Bさんにとっての災害は違うのではないかと
思います。自分の現実と、誰かの現実、このギャップを嘆いたり、
無理に埋めたりしようとする必要はないようにも思います。

見つけ出して

色々な人の意見、自分の中で割れる意見、その中から本当に自分に
必要な声を聴くことができますように、という想いを込めました。
秋風には、物事を終わりにする、という意味もあるそうです。
「自分になるため」に必要な綺麗事 etc..に、秋風を吹かせて
お別れです。ここもレクイエムをイメージしました。

果てない暗闇
涙が糸引く窓だとしても
朝は流れ込む
置いてきぼりの小さな誓い
迎えに行く道で
ちょっとずつ
自分になれる日が来ますように

探し物は、自分で見つけ出すかもしれないし、だれかが見つけてくれるかも
しれない。でも、必ず見つかるし、見つけ出してほしいな、と思います。